

教科(科目)	産業社会と人間(自己探究Ⅰ)	単位数	1単位	学科・学年・コース・組	1年次
使用準教科書	産業社会と人間 よりよき高校生活のために 四訂版(準教科書;学事出版)				
副教材等	自作プリント				

1 学習の到達目標

高校生活スタートにあたって、単位制高校のしくみと特徴を知り、積極的に周囲との協調をはかる大切さを知る。自分自身の生活、生き方を客観的にとらえ、自己理解をはかる。自らの適性を考えながら、進路をふまえ適切な科目選択が行えるようにする。

2 指導の重点

単位制の授業の特徴を理解する。身近な職場や上級学校の様子について知る。2年次の選択科目をよく考え適切な科目選択をする。自己理解を深め、自分の将来について考える。積極的に授業に参加し、真剣にガイダンスノートに取り組む。

3 学習の計画

	単元名	学習活動(指導内容)	時間	評価の観点	評価方法
前期	学校を知る	単位制高校のしくみ、学校のきまりについて	4	b c	自己探究ノートの提出、内容
	性の講演会	外部講師による講演会	2	b c	
	学習計画	履修の手引き・科目説明会・個別指導・面談	7	b c	
	意識啓発講座	外部講師による高校生活について考える講話	2	a b c	自己評価
後期	生活体験発表会	積極的に生活を振り返ることで客観的に自分の姿をとらえる	1	a b c	
	職場上級学校見学学習	職場学校見学後に自らの進路について考える	1	a b c	その他学習
	校外研修	地域の文化を学ぶ	6	a b c	活動の成果
	スクールカウンセラーから学ぶ	カウンセラーの講話から高校生活を考える	2	a b c	物
	スキー教室事前学習	班分け・事前指導、集団行動を行う上での注意点	2	a c	
	集団生活を学ぶ	スキー教室における集団生活	3	a c	
	主権者教育	主権者としての主体的な判断、取り組みを考える	1	a b c	
	進路ガイダンス	進路別に相談	3	b c	
履修確認	次年度の履修計画の確認	1	b c		

計 35 時間 (50 分授業)

4 課題・提出物等

毎時間自己探究ノートを記入し提出。

5 評価規準・評価方法

評価は次の3つの観点から行います。

知識・技能 (a)	思考・判断・表現 (b)	主体的に学習に取り組む態度 (c)
自己理解をすすめ、他者を理解するために、正しく自己分析を行い、周囲に働きかけること、自他ともに尊重することを、学習活動の中から学び、理解し、実践に活かすことができる。 〔評価〕 自己分析と自他尊重の大切さを A 十分理解している。 B ある程度は理解している C 今後の努力が望まれる	家庭・学校生活、様々な学習活動をとおして自分や周囲を正しく理解し、よりよい社会関係を築いていくために、自らの思考を深め、適切に判断する能力を持ち、その成果を表現することができる。 〔評価〕 自ら考え、判断、表現することを A 十分行うことができる。 B ある程度は行うことができる C 今後の努力が望まれる	自分自身を様々な体験活動等とおして客観的に見つけ、考察、整理し、自己理解と分析を行う。自らの将来や、周囲への配慮、共感など、関心をもって意欲的に考え行動できる。 〔評価〕 学びに関心を持ち積極的取り組みを A 十分行うことができる。 B ある程度は行うことができる C 今後の努力が望まれる

6 担当者からの一言

高校生活の開始に合わせて、良いスタートで生活や学習を軌道に乗せていくために、周囲と自分の今を見つめることから始めて行きましょう。授業や様々な見学・体験のなかで、社会と自分のつながりをしっかりと考え、様々な問題に気づくこと。自らの適性をみつめた上で、将来を考え、希望の進路にあわせた科目選択を行う。